

## 富山県におけるバス科魚類の分布

稲村 修

魚津水族館

〒937-0857 富山県魚津市三ヶ1390

### Distribution of Family Centrarchid fish in Toyama Prefecture, Hokuriku, Japan

Osamu Inamura

Uozu Aquarium

1390, Sanga, Uozu-shi, 937-0857, JAPAN

The distribution of three species of sunfish of the family Centrarchidae was investigated in Toyama Prefecture in 2000. I investigated 35 reservoirs. Largemouth bass, *Micropterus salmoides*, was found from 15 reservoirs and bluegill, *Lepomis macrochirus*, from 4 reservoirs. The two species enlarged to their distributions in recent this 10 years (Inamura, 1991). Smallmouth bass, *Micropterus dolomieu*, was recorded from Toyama Prefecture for the first time.

**Key words:** black bass, largemouth bass, smallmouth bass, bluegill, Toyama Prefecture

2000年、富山県におけるバス科魚類3種の生息調査を行った。35ヶ所の調査地点のうち、15ヶ所でオオクチバスが、4ヶ所でブルーギルが確認され、ここ10年間で生息地の増加が見られた(稲村, 1991)。また、1ヶ所でコクチバスが富山県内で初めて確認された。

**キーワード:** オオクチバス, コクチバス, ブルーギル, 富山県

#### はじめに

北アメリカ原産のバス科魚類であるオオクチバス *Micropterus salmoides* とブルーギル *Lepomis macrochirus* は、水産上の目的や、釣りの対象魚として導入され、各地へ放流された(金子・若林, 1998; 丸山他, 1987)。しかし一方で、日本の在来生物に対する被害が指摘されてきた(寺島, 1980, 1989; 前畑, 1989)。

近年、釣りブームに乗ってオオクチバスが日本各地で盛んに放流されており、さらにコクチバス *Micropterus dolomieu* の確認など、バス科魚類の在来種に与える影響の大きさが懸念されている(秋月, 1999; 東, 1999; 中井, 1999)。オオクチバスは1925年に神奈川県芦ノ湖に放流されたのが日本で最初の導入である(丸山他, 1987)。当時はコクチバスも同時に放流されたとされるが、結局、姿を消し、オオクチバスのみが繁殖したとされる(赤星・福原, 1996)。コクチバスの日本への導入は明確ではないが、1992年には福島県松原湖や長野県野尻湖で確認されている(秋月, 1999)。

ブルーギルは1960年に導入され、淡水区水産研究所で繁殖させた個体を大阪府淡水試験場に分与したが、同試験場から各地へ養殖目的で広まった(丸山他, 1987)。

オオクチバス、コクチバス、ブルーギルの放流は、沖縄県と北海道を除く各都道府県で法的に規制されており(2000年12月現在)、富山県では内水面漁業調整規則(1993年4月1日公布)により「移植の制限」をしており、知事の許可なく放流することを禁じている。

富山県では、1980年に初めて、オオクチバスが確認され(宮崎・谷内, 1982)、その後、1990年にブルーギルが確認されている(稲村, 1991)。

筆者は、1990年に富山県における外国原産の魚類・爬虫類・両生類の調査を行い、オオクチバスとブルーギルの生息状況を報告した(稲村, 1991)。

それから約10年が経過し、近年、バス科魚類の生息状況が急激に変化している兆候がみられる。そこで、富山県におけるバス科魚類の分布状況について調査を行ったので、その結果を報告する。

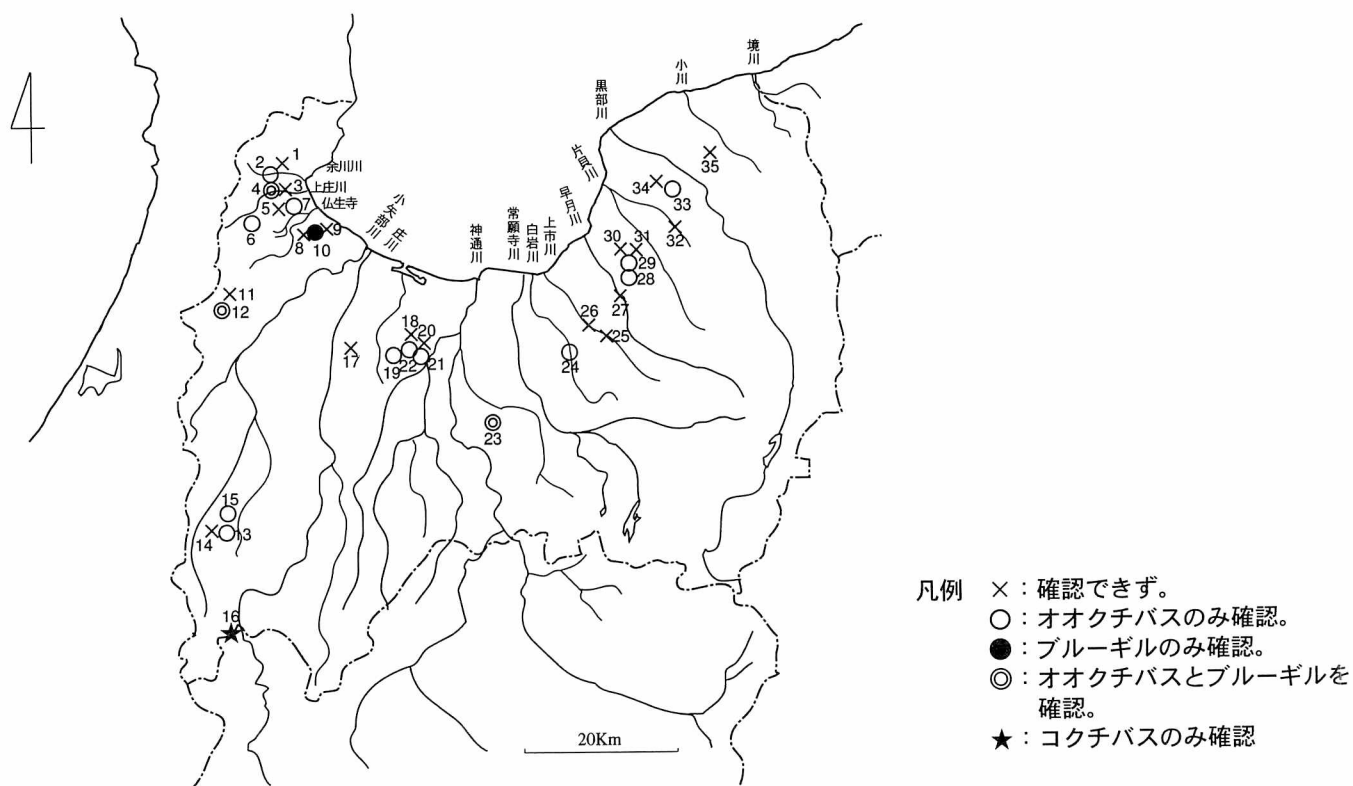


図1 調査地点・分布図

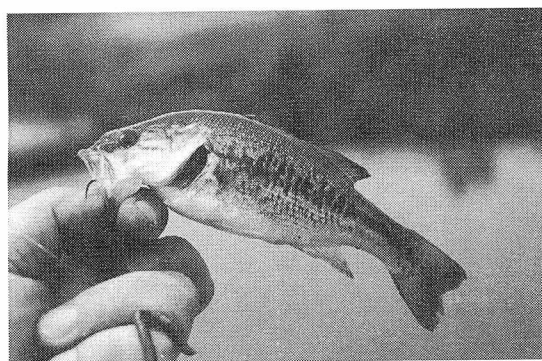


図2 釣り上げたオオクチバス（古洞ダム産）

## 調査地点及び方法

### 1) 調査方法

釣り等によって捕獲を行い、生息種の確認を目指した。また、捕獲できない場合でも、補足として目視による確認も行った。さらに状況に応じ、聞き取り調査も行った。

捕獲は、採集した通称ドバミミズや市販のシマミミズを餌にした餌釣りや、ルアーを使った釣りで行った。

目視は、主に偏光ガラスを使用し、水面や水面近くに浮いている個体を確認した。目視確認において、多くの場合、オオクチバスとコイとの区別が問題になる。慣れれば体型や泳ぎ方で判別できるが、初歩的には尾

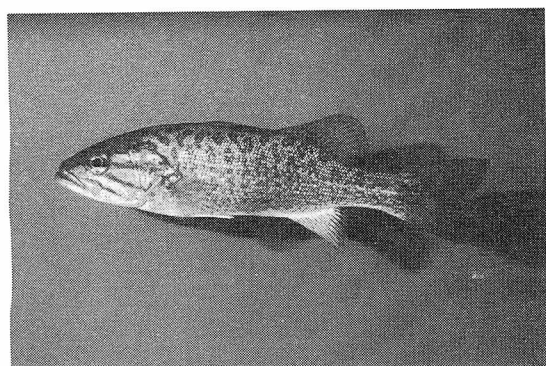


図3 コクチバス（境川ダム産）



図4 放棄されたブルーギル（荒川溜池）

表 1 バス科魚類調査結果 (2000年)

No.	調査地点名称	地名	水系名	河川名	オオクチバス	コクチバス	ブルーギル
1	鳥山池	氷見市稲積	余川川	余川川	×	×	×
2	稲積の池	氷見市舟塚	余川川	—	○	×	×
3	加納大池	氷見市加納	上庄川	上庄川	×	×	×
4	塩田下池	氷見市七分一	上庄川	上庄川	○	×	○
5	谷内池	氷見市中尾	上庄川	—	×	×	×
6	桑の院大池	氷見市桑の院	上庄川	桑の院川	○	×	×
7	北谷内池	氷見市朝日丘	仏生寺川	湊川	○	×	×
8	大浦大池	氷見市大浦	仏生寺川	堀田川	×	×	×
9	乱橋池	氷見市宮田	泉川	—	×	×	×
10	大谷内池	氷見市下田子	泉川	—	×	×	○
11	五位ダム	福岡町五位	小矢部川	子撫川	×	×	×
12	子撫川ダム	小矢部市宮中	小矢部川	子撫川	○	×	○
13	桜ヶ池	城端町西原	小矢部川	大井川	○	×	×
14	是ヶ谷大池	福光町七曲	小矢部川	大井川	×	×	×
15	土生新大池	福光町土生新	小矢部川	小矢部川	○	×	×
16	境川ダム	上平村桂	庄川	境川	×	○	×
17	和田川ダム	砺波市増山	庄川	和田川	×	×	×
18	勅使ヶ池	小杉町山本新	新堀川	—	×	×	×
19	古洞ダム	富山市三熊	新堀川	鍛冶川	○	×	×
20	行付池	富山市池多	新堀川	—	×	×	×
21	新堤	婦中町新町	神通川	—	○	×	×
22	中堤	婦中町新町	神通川	—	○	×	×
23	荒川溜池	大沢野町坂本	神通川	熊野川	○	×	○
24	白岩川ダム	立山町白岩	白岩川	白岩川	○	×	×
25	上市川第二ダム	上市町東種	上市川	上市川	×	×	×
26	上市川ダム	上市町東種	上市川	上市川	×	×	×
27	早月川蓑輪堰堤	滑川市蓑輪	早月川	早月川	×	×	×
28	角川ダム	魚津市大熊	角川	角川	○	×	×
29	小菅沼の池	魚津市小菅沼	角川	角川	○	×	×
30	双子池	魚津市小菅沼	角川	—	×	×	×
31	池谷の池	魚津市池谷	角川	—	×	×	×
32	布施川ダム	黒部市福平	片貝川	布施川	×	×	×
33	栗寺の池	黒部市栗寺	黒瀬川	大谷川	○	×	×
34	大谷ダム	黒部市前沢	黒瀬川	大谷川	×	×	×
35	棚山西池	朝日町棚山	小川	山合川	×	×	×
確認地点					15	1	4

鱗の形状がコイでは中央部が深く湾入するのに対し、オオクチバスでは湾入が浅く後端がやや直線的である点で区別しやすい。さらに、オオクチバスは体側に太い黒色縦帯があり、尾鰭の縁も黒く縁取られている点で比較的簡単に区別できる。コクチバスはオオクチバスに似た体形でやや細身の個体が多く、オオクチバスで見られるような体側の黒帯は見られない。ブルーギルは側扁し丸みを帯びた体型と、名前の由来にもなっている鰓蓋後端にある濃紺もしくは黒い斑紋で確認した。

2) 調査場所 富山県内の溜池、ダム湖を対象とし、釣り人などからの情報に基づき調査場所を探ったため、特に規則性はない。最終的に、ダム湖11ヶ所、溜池23ヶ所、堰堤による湛水部1ヶ所の計35ヶ所を調査した。市町村で分ければ、7市9町1村(氷見市、福岡町、小矢部市、城端町、福光町、上平村、砺波市、小杉町、婦中町、富山市、大沢野町、立山町、上市町、滑川市、魚津市、黒部市、朝日町)になった。調査地点は表1と図1に示した。

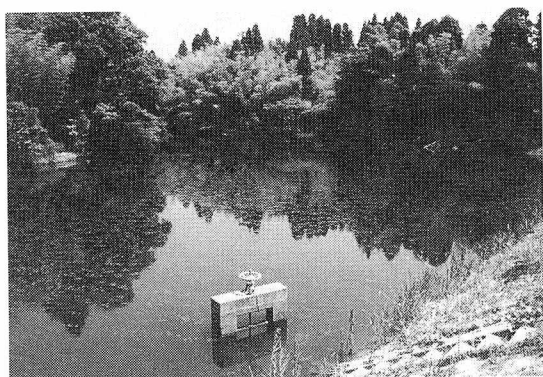


図5 大谷内池（氷見市）

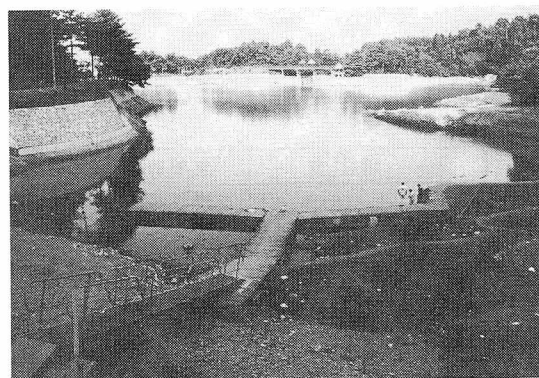


図8 桜ヶ池（城端町）



図6 栗寺の池（黒部市）

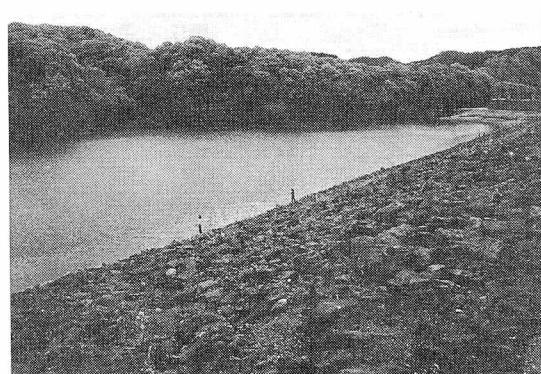


図9 子撫川ダム（小矢部市）

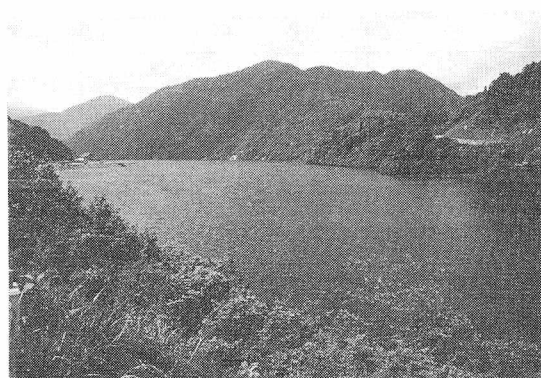


図7 境川ダム（上平村）

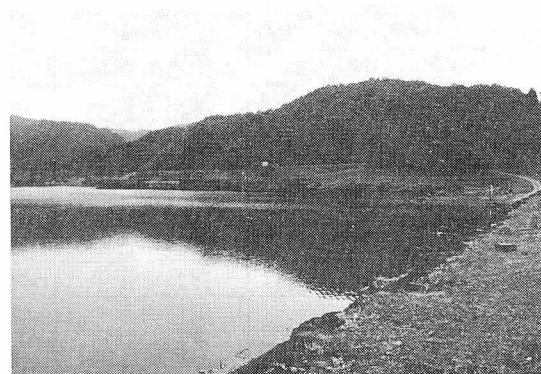


図10 白岩川ダム（立山町）

3) 調査期間 バス科魚類の活動が活発になる水温が高い時期を主な調査期間とし、2000年5月14日から、同年11月7日までの期間で行った。

#### 調査結果

釣りや目視による調査は、採集時の状況により結果が異なる可能性が大きい。つまり、調査地点に生息していても、釣れなかったり、水面近くにいないければ目視できないわけで、「確認できなかった」が「生存していない」と同じではない。例えば福岡町の五位ダム

では、前年までオオクチバスとブルーギルを釣りで確認していたが、今回の調査では、釣ることも、見ることもできなかった。しかし、再調査する時間を取れず、「確認できなかった」としてある。今回の調査結果は、期間中に確認した事実だけを記しておく。

今回の調査では、従来から確認されていたオオクチバス、ブルーギルに加えてコクチバスが富山県内では初めて確認された。調査結果の一覧は表1に、調査結果から作成した分布図は図1に示した。次に各魚種の概要を示す。



## ①オオクチバス(図2)

オオクチバスは5市4町(氷見市, 小矢部市, 城端町, 婦中町, 富山市, 大沢野町, 立山町, 魚津市, 黒部市)の計15地点の溜池, ダム湖で確認された。

氷見市では多く, 4ヶ所の溜池で確認された。4ヶ所とも, 数多くのオオクチバスを釣り上げて確認した。小矢部市の子撫川ダム(図9)と城端町の桜ヶ池(図8)は, 1980年に富山県で初めて生息が確認された場所であるが, 今回も釣りで確認した。両地点とも, バス釣りの人が多く見られた。福光町の土生新大池, 婦中町の新堤, 中堤, 富山市の古洞ダム, 大沢野町の荒川溜池では釣りによって確認した。立山町の白岩川ダム(図10)では, 釣りによる確認を行ったが, 6月13日に親魚が稚魚の群れを守っており, 繁殖が確認できた。6月16日には, 親魚が見られず稚魚だけの群れになっていた。稚魚をタモ網で捕獲したが, 全長約2cmであった。魚津市の角川ダムでは釣りにより確認したが, 小菅沼の池は目視による確認である。黒部市の栗寺の池(図6)では, 釣り上げて確認した。

## ②コクチバス(図3)

コクチバスは上平村の1地点でのみ確認された。場所は庄川水系境川にある境川ダム(通称:桂湖)(図7)で, 岐阜県と富山県との県境に位置する。今回の調査で最初に確認したのは5月23日で, 釣りにより全長約18cmの個体を2尾採集した。11月7日までに計6回の調査を行い, 全長約14~23cmの個体を50尾以上採集した。また, コクチバスの生息情報があつた早月川の蓑輪堰堤では, 6月2日に調査を行ったがコクチバスは確認できなかった。

## ③ブルーギル

ブルーギルが確認されたのは4地点で, 2市1町(氷見市, 小矢部市, 大沢野町)であった。氷見市では, 塩田下池と大谷内池(図5)の2ヶ所の溜池で確認した。塩田下池では全長約15cmの大型個体を釣りで確認し, 大谷内池では全長10cmほどの個体が大量に目視確認された。小矢部市の子撫川ダムは, 1990年に富山県で初めて生息が確認された場所であるが(稲村, 1991), 今回も釣りで多数確認した。大沢野町の荒川溜池では釣りで確認した。また, 釣り上げられたブルーギルが道路わきに多数放棄されていた(図4)。

## 考察

今回の調査を行って, まず感じたことは, 人的な放流による生息地の拡大である。確認された生息地は, すべてが車によるアクセスのしやすい場所にある。このことは, 釣りを目的とした放流が車を利用して行わ

れていることを示している。また, オオクチバスが確認された地点は, 沢山の釣具の包装や釣り糸, 食べ物や飲み物の容器がゴミとして捨てられており, 釣り人のマナーの悪さが感じられた。このように, オオクチバスの生息地を探す場合, 地図上で車道からアクセスが良い場所を選び, 現地において前述のようなゴミが見られる場所が生息の可能性が高いと言える。次に各魚種について述べる。

## ①オオクチバス

これまでオオクチバスの生息が報告されていたのは, 3市2町(小矢部市, 城端町, 小杉町, 富山市, 魚津市)であるが(宮崎・谷内, 1982; 稲村, 1991), 今回の調査では新たに氷見市, 福光町, 婦中町, 大沢野町, 立山町, 黒部市で確認された。また, 今回の調査で新たに12地点で生息が確認された。この結果を見ると, 県西部から東部まで県内全域に広く生息しているのが分かる。各地点を見ると, ダム湖から小型の農業用溜池まで確認されており, 無差別な放流がなされている状況が分かる。また, 白岩川ダムでは, 繁殖も確認されており, 他のダム等でも繁殖が可能と推測される。

## ②コクチバス

今回, 富山県で初めて確認されたコクチバスは, 庄川上流の境川ダムでのみ確認された。境川ダムは1993年に完成しているので, その後, 違法放流されたと考えられる。今後, 下流域への拡散や, 他の地域への違法放流の供給源になることが危惧される。

## ③ブルーギル

これまでブルーギルの生息が報告されていたのは小矢部市の子撫川ダムだけであるが(稲村, 1991), 今回新たに氷見市(2地点)と大沢野町(1地点)で確認され, 場所は少ないものの県西部から中央部と広がりを感じる。

ブルーギルが確認された4地点のうち3地点は, オオクチバスとともに確認されている。また, オオクチバスが確認できなかった大谷内池(氷見市下田子)はオオクチバスが生息しているという情報がある(坂私信)。ブルーギルがオオクチバスと抱き合わせで放流されているのは全国でも多く知られており, それが日本の生態系に及ぼす被害の大きさが指摘されている(秋月, 1999)。富山県でも, 今後, 生態系の著しい攪乱が危惧される。

以上, 今回の調査は十分なものとは言えないが, コクチバスの富山県内初確認や, オオクチバス, ブルー

ギルの拡散の状況が明らかになり、今後の移入種問題を考える上の基礎データが収集されたものと思う。本報告を取りまとめている2001年には、富山県によって、ダム湖や大型の溜池において、バス科魚類の生息分布調査が行われており、さらに詳細な生息状況が明らかになると思われる。今後、各生息地における在来種や生態系に対する影響など、明らかにすべき問題点は多々残されている。

### 謝辞

調査にあたり、加藤輝威氏（氷見市）には多くの採集にご同行いただき、本江吉信氏（高岡市）と中沢慎太郎氏（福光町）にも、調査にご協力いただいた。また、二橋 亮氏（日本蜻蛉学会会員）、坂 貴義氏（氷見市）、根岸春之氏（魚津市）には、生息情報をいただいた。滋賀県立琵琶湖博物館学芸員の中井克樹博士には文献等の情報をご紹介いただいた。さらに、取りまとめにあたり、富山市科学文化センター布村昇館長および学芸員の南部久男博士と富山大学教育学部教授の田中晋博士には、ご指導をいただいた。ここに御礼申し上げます。

### 参考文献

- 赤星鉄馬・福原 毅, 1996. ブラックバス. イートハーヴ出版, 東京. 189pp.
- 秋月岩魚, 1999. ブラックバスがメダカを食う. 宝島社, 東京. 222pp.
- 東 幹夫, 1999. 外来魚による生態系攪乱. pp. 145-153. 淡水生物の保全生態学—復元生態学に向けて—

- (森 誠一編著). 信山社サイテック, 東京.
- 稲村 修, 1991. 富山県における外国原産の両生類・爬虫類・魚類について. 魚津水族館年報, 1: 32-42
- 金子陽春・若林 務, 1998. ブラックバス移植史. つり人社, 東京. 254pp.
- 全国内水面漁業協同組合連合会, 1991年. ブラックバスとブルーギルのすべて—外来魚対策検討委託事業報告書—, 東京. 221pp.
- 寺島 彰, 1980. ブルーギル—琵琶湖にも空いていた生態的地位. pp. 63-70. 日本の淡水生物—侵略と攪乱の生態学 (川合禎次・川那部浩哉・水野信彦編), 東海大学出版会, 東京.
- 寺島 彰, 1989. ブルーギル. 図鑑. 解説. pp. 506-511. 山溪カラー名鑑日本の淡水魚 (川那部浩哉・水野信彦編), 山と溪谷社, 東京.
- 中井克樹, 1999. 「バス釣りブーム」がもたらすわが国の淡水生態系の危機—何が問題で何をなすべきか. pp. 154-168. 淡水生物の保全生態学—復元生態学に向けて— (森 誠一編著). 信山社サイテック, 東京.
- 前畑政善, 1989. オオクチバス. 図鑑. 解説. pp. 494-505. 山溪カラー名鑑日本の淡水魚 (川那部浩哉・水野信彦編), 山と溪谷社
- 丸山為蔵・藤井一則・木島利通・前田弘也, 1987. 外国産新魚種の導入経過. 水産庁研究部資源課・水産庁養殖研究所, 157pp.
- 宮崎統伍・谷内則之, 1982. 小矢部川水系に生息するブラックバスについて. 富水試だより, 28: 7-8. 富山県水産試験場